

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	WETレーディングジャパン様物流倉庫	階数	地上1階
建設地	愛知県豊田郡岡崎町大字5丁目21番、29番、40番、41番、42番、43番、44番、45番1、45番2、46番2、47番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	14人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年3月23日
敷地面積	7,553 m <sup>2</sup>	作成者	小山琢洋
建築面積	4,440 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月24日
延床面積	4,440 m <sup>2</sup>	確認者	水谷 正



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Qのスコア = 2.1**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.1

#### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 2.6**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">7.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
WETレーディングジャパン様物流倉庫

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.1</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									-	
<b>1 音環境</b>									-	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									-	
1 開口部遮音性能									-	
2 界壁遮音性能									-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
<b>2 温熱環境</b>									-	
2.1 室温制御									-	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
<b>3 光・視環境</b>									-	
3.1 昼光利用									-	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									-	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									-	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
<b>4 空気質環境</b>									-	
4.1 発生源対策									-	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									-	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO <sub>2</sub> の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.5</b>	
<b>1 機能性</b>									-	
1.1 機能性・使いやすさ									-	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									-	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									-	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>2.8</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.5	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.52	
1 躯体材料の耐用年数									0.3	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.1	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									0.33	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									-	
6 主要設備機器の更新必要間隔									0.27	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									2.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

耐用年数の長い材料を使用し、更新頻度を抑えている

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
<b>3.1 空間のゆとり</b>				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		ゆとりある階高を確保	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長比率をおさえて、空間の自由さを確保 荷重に余裕をもたせている	3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	4.0	0.31	-	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				0.3	3.7	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.27	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性		内装材と設備が錯綜しないようにした	3.0	5.0	0.18	-	-	-	
4	通信配線の更新性		内装材と設備が錯綜しないようにした	3.0	5.0	0.18	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.36	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	-	-	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57	-	-	-	1.1
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	1.0	0.40	-	-	-	1.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	1.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-	-	-	-	2.6
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	2.0
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>				1.0	2.0	1.00	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	3.3
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	-	5.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	3.0
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	敷地内に十分な転回スペースを確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

WEトレーディングジャパン様物流倉庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:7.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 WETレーディングジャパン様物流倉庫

計画上の配慮事項	
総合	集荷等の車両のために、敷地内に十分な転回スペースを設けることで、周辺道路への影響をあたえないようにしました。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	階高にゆとりをもたせています
Q3 室外環境(敷地内)	緑地の確保に努めています
LR1 エネルギー	照明器具にLED照明を使用し、省エネへの配慮をした
LR2 資源・マテリアル	内装と設備を明確にし、維持管理が行いやすいようにした
LR3 敷地外環境	日影規制を満たし、周辺へ影響がないように努めています
その他	特にありません